

市民生活協同組合ならコープ
理事長 中野 素子 様

市民生活協同組合ならコープ 環境監査委員会
委員長 和田 武 和歌山大学客員教授
当麻 潔 奈良県地球温暖化防止活動
推進センター長
辻村 輝美 組合員代表
吉村 恵 組合員代表
稲野 玲子 ならコープ常任理事
小山 幸恵 ならコープ理事
竹本万里子 ならコープ理事
山内美和子 ならコープ理事
金光 結香 ならコープ監事

2019年度 環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後の目指すべき活動等の提案について、監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

I. 監査概要

2019年度ならコープ環境事業のまとめの書類監査(監査期間 2020年4月22日(水)～4月30日(木))

II. 2019年度実績の評価

1. 前回監査の結果「今後の取り組みにあたっての意見」に真摯に対応し、多岐にわたる環境活動を職員、組合員、各種団体等との協同により展開して成果を上げており、高く評価できます。
2. 店舗の冷蔵・冷凍ケースの省エネ化および太陽光発電による電気の自家消費により電気使用量の削減を実現したこと、「ならコープでんき」のCO₂排出係数を低減し事業活動におけるCO₂排出量を大幅に削減できたことは高く評価できます。
3. 再生可能エネルギー発電では、小又川発電所(小水力：下北山村)の更新に市民出资方式も取り入れて尽力してきたこと、組合員家庭の太陽光発電電力を他電力会社より高い買取価格12円/kWhで実施し75件が買い取られたこと、全国的にも先駆的な再エネ協同基金の取り組みで着実に成果をあげつつあること、は高く評価できます。
4. プラスチック容器包装削減の取り組みとして、「ノントレー包装機」の導入、夕食宅配フルラップ化など、3RB(リデュース・リユース・リサイクル・バイオマス由来材料利用)の取り組みを通じて成果をあげたことは高く評価できます。

III. 今後の取り組みにあたっての意見

1. 現行の活動をSDGsの17の目標に紐づけするだけではなく、17の目標、169のターゲットから新たな事業や施策を創出するなど、積極的にSDGsを活用されることを期待します。
2. 事業活動でのCO₂削減に加え、組合員と一緒に活動を進めることを期待します。市民(組合員)との接点機会が多いことから、再生可能エネルギー比率の高い「ならコープでんき」の普及啓発を行い、組合員の家庭でのCO₂削減をさらにすすめていただきたい。
3. 今後も店舗、無店舗事業が率先して、プラスチック容器包装材の削減、食品ロス削減などリデュースに努め、「見える化」することで組合員の理解を深めるようにしていただきたい。
4. 環境保全のために産業、文化、人のつながりも豊かにする「吉野共生プロジェクト」、地域の環境団体と子どもたちの環境教育、資源循環型社会の形成に取り組む「菜の花エコプロジェクト」の継続、また環境問題に関心のある若い世代への支援の具体化に期待します。
5. 奈良県の豊かな資源を有効活用し、森林資源のエネルギー利用など地域の方々関わってできる取り組みの推進に期待します。また、2050年CO₂排出実質ゼロに向け、再エネ導入目標の設定と合わせ、森林によるCO₂吸収についての検討を提案します。

以上